

## 環境マネジメント活動－脱炭素社会の実現に向けて

# GHG排出量の削減

DNPは、脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量削減（省エネルギー）、CO<sub>2</sub>排出量が少ないエネルギーへの転換、再生可能エネルギーの導入を行っています。また、付加価値が高く環境負荷の低い事業ポートフォリオへの転換をめざしています。

なお、省エネ効果の高い設備への投資を優先して行っていくため、設備選定時にインターナルカーボンプライシング（ICP）を用いて判断しています。このICPについて今回、該当設備が排出すると想定するCO<sub>2</sub>に対して、1トンあたり3,000円換算から20,000円換算に変更し、より環境負荷の少ない設備の導入を進めています。

### ● GHG排出量

#### Scope 1・2 GHG排出量 2023年度実績：745 [千トン-CO<sub>2</sub>]

年次	総排出量	左から	
		Scope 1	Scope 2
2015	1,201	264	937
2016	1,093	263	830
2017	1,027	269	758
2018	961	248	713
2019	916	244	672
2020	837	227	610
2021	801	236	565
2022	763	215	548
2023	745	210	535

**GHG排出量**（単位：千トン-CO<sub>2</sub>） 国内での電気の使用、燃料の使用・燃焼、廃棄物の焼却、HFC・PFC・SF<sub>6</sub>・NF<sub>3</sub>の大気放出により排出されるGHGを「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver4.8（令和4年1月）」に基づき算定しました（GHG排出量が極めて少ない一部の排出源は除外）。2023年度の国内の電気の排出係数については、電気事業者別排出係数（令和4年度実績）公表に基づき、電力会社ごとの排出係数を使用しました。また海外においても電力会社毎の排出係数を使用しました。（電力会社情報などが得られない一部の事業所においては、国別の排出係数を使用しています。）

※ 2023年度は、Scope 1・2排出量に加え、VOC燃焼由来のGHG排出量を98千トン排出しました。（2024年度の報告からVOC燃焼由来のGHG排出量をBM年度に遡って加算し、削減目標の対象としていきます。）

※ グループ企業の輸送にともなうScope 1排出量はScope 3として集計しています。

### ● 再生可能エネルギーの導入

#### 太陽光発電設備（オンサイト）の設置状況

設置年	設置場所	システム容量
2009	DNP高機能マテリアル 泉崎工場	30kW
2011	DNP市谷加賀町第2ビル	30kW
	DNP市谷田町ビル	10kW
2012	つくば研究施設	11kW
2015	DNP市谷加賀町ビル	36kW
	DNP市谷鷹匠町ビル	24kW
	狭山工場	6kW
2020	柏研究施設	600kW
2023	DNPテクノパック 京田辺工場	1,316kW
	DNPインドネシア カラワン工場	1,658kW
	DNPファイノプトロニクス 三原東工場	4,617kW
	DNPエリオ 大阪工場	10kW

2023年度の再生可能エネルギーの発電量、購入量、および証書等の利用による実質再生可能エネルギー使用量の合計は10,745千kWhでした。

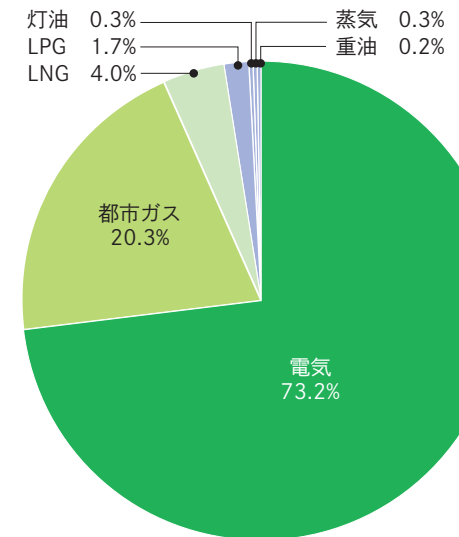
2023年度は、DNPテクノパック 京田辺工場、DNPファイノプトロニクス 三原東工場、DNPインドネシア カラワン工場などで大規模な太陽光パネルを導入、また北海道コカ・コーラプロダクツ 札幌工場ではオフサイトPPAの利用を開始しました。

### ● 国内の種類別GHG排出量

単位：トン-CO<sub>2</sub>

総排出量	646,600
エネルギー起源	625,400
非エネルギー起源	19,100
メタン	380
一酸化二窒素	180
ハイドロフルオロカーボン類 (HFC)	1,530
パーフルオロカーボン類 (PFC)	10
六フッ化硫黄 (SF <sub>6</sub> )	0
三フッ化窒素 (NF <sub>3</sub> )	0

### ● 国内の燃料構成割合



※ 上記以外に車両用としてガソリンおよび軽油の使用があります。（0.1%未満）

## 環境マネジメント活動－脱炭素社会の実現に向けて

# GHG排出量の削減

### ● 輸送に関する対策

輸送時の環境負荷の低減として、積載率の向上、配車や輸送ルート  
の適正化、デジタルタコメーター導入による効率化、アイドリングストップ、  
鉄道輸送へのモーダルシフト、ハイブリッドカーの導入などを進めています。

#### 国内製造拠点 2023年度実績

荷主輸送量 275[百万トンキロ]

輸送用燃料使用量 14,850[kℓ](原油換算)

CO<sub>2</sub>排出量 38,960[トン]

輸送用燃料使用量原単位(輸送用燃料使用量/売上高)

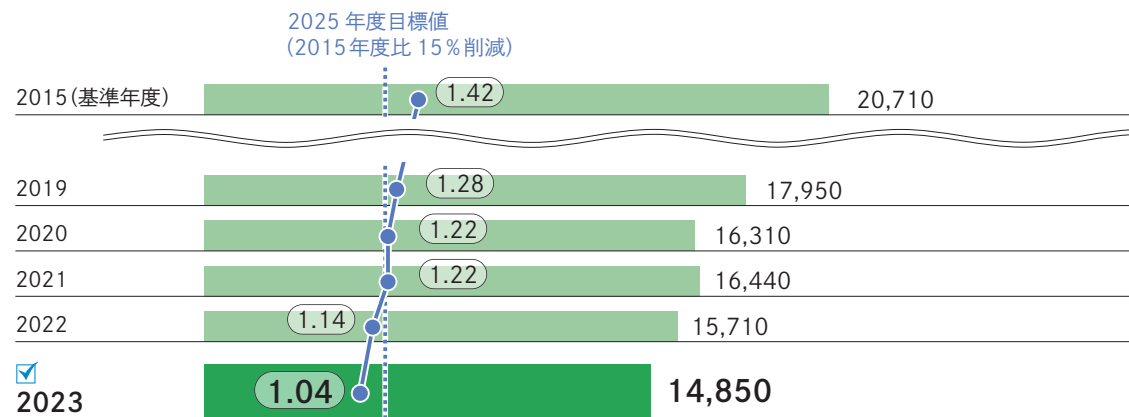
1.04[kℓ/億円]

2015年度比 26.9%削減

### ● オフィスでの対策

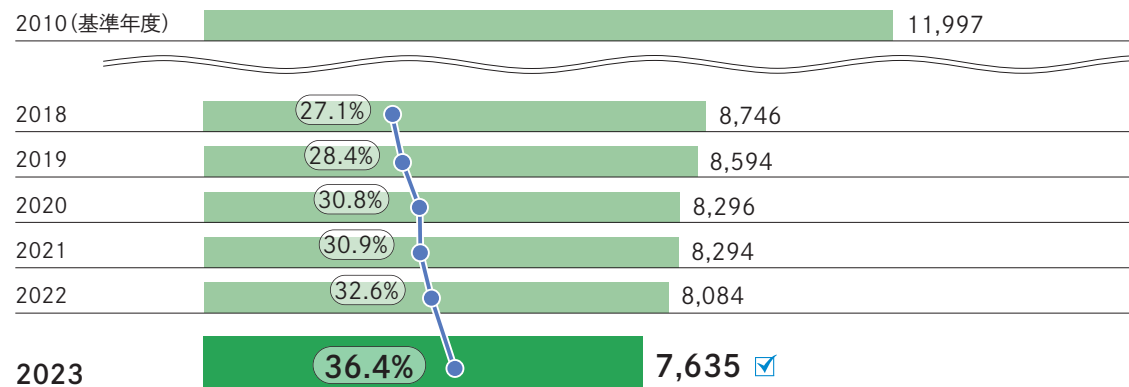
2005年度からオフィスでのCO<sub>2</sub>削減活動にも取り組んでおり、全国  
のオフィスを対象に電力使用量の2010年度比20%削減を目標に掲げ  
ています。照明台数・照度の抜本的見直し、空調運用方法の見直し、LED  
照明の拡大等を実施しています。

輸送用燃料使用量(単位:原油換算 kℓ) 棒グラフ / 輸送用燃料使用量売上高原単位(単位:kℓ/億円) 折れ線グラフ



※ 国内の荷主輸送にともなう量。

主要オフィスの電力使用量※(単位:千 kWh) 棒グラフ / 2010年度比削減率 折れ線グラフ



※ 2010~2023年度の間、継続的に営業を行っている国内主要オフィス25箇所

## 環境マネジメント活動－脱炭素社会の実現に向けて

# サプライチェーン排出量

DNPにおけるサプライチェーン排出量のうち、原材料調達段階 (Scope3 カテゴリ1) の排出量が全体の約半分を占めています。

サプライチェーン排出量削減に向けて、サプライヤー説明会やアンケート、直接の面談等により、取り組み等を共有、協議することで、サプライヤーの皆様と協力して推進しています。

単位:千トン-CO<sub>2</sub>

	2021年度	2022年度	2023年度
Scope 1 排出量	236	215	210
Scope 2 排出量	565	548	535
Scope 3 排出量	4,240	4,370	4,210
サプライチェーン排出量	5,040	5,130	4,960

### Scope 3 排出量内訳

カテゴリ	2021年度	2022年度	2023年度
カテゴリ 1 購入した製品・サービス	2,700	2,750	2,650
カテゴリ 2 資本財	92	160	130
カテゴリ 3 Scope 1・2に含まれない燃料およびエネルギー活動	140	130	120
カテゴリ 4 輸送、配送(上流)	180	170	170
カテゴリ 5 事業から出る廃棄物	29	27	26
カテゴリ 6 出張	4	8	12
カテゴリ 7 雇用者の通勤	17	24	23
カテゴリ 8 リース資産(上流)	-	-	-
カテゴリ 9 輸送、配送(下流)	620	620	610
カテゴリ 10 販売した製品の加工	-	-	-
カテゴリ 11 販売した製品の使用	11	12	13
カテゴリ 12 販売した製品の廃棄	450	460	460
カテゴリ 13 リース資産(下流)	-	-	-
カテゴリ 14 フランチャイズ	-	-	-
カテゴリ 15 投資	6	4	1

### 【算定方法】

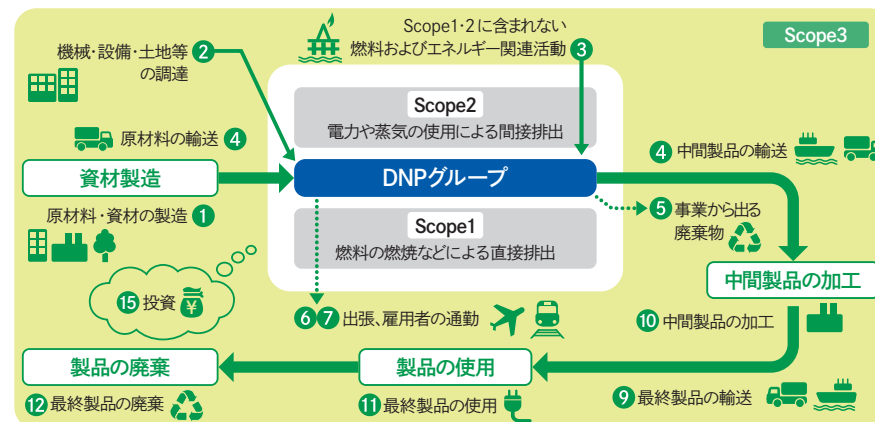
環境省・経済産業省が定めたGHG排出量の算定方法に関するガイドライン「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインVer3.4」に準拠し算定。

- ・グループ企業の輸送にともなうScope1排出量はカテゴリ4に含める
- ・カテゴリ8はScope1・2に含める。カテゴリ10は最終製品の構成割合が微小なため、算定除外。
- ・カテゴリ11は国内のPETボトル飲料由来の排出量のみを算定
- ・カテゴリ13・14は非該当

2021年度より、IDEAの原単位を使用して算定。(2023年度は「IDEA Ver.3.4」)

### 【算定範囲】

主要国内拠点(北海道コカ・コーラプロダクツおよび書店グループ等は除く)および海外主要サイト(PT DNP Indonesia, DNP Imagingcomm America Corporation, DNP Imagingcomm Asia Sdn.Bhd.)



### ● サプライチェーン排出量

